

株式会社イグニス（東証マザーズ：3689）

IGNIS

事業プロフィール

- ・無料ネイティブアプリ及びネイティブソーシャルゲームの企画・開発・運営・販売事業者。主要関連会社は8社で（内1社は米国）、事業分野および海外地域で分社化され、各々事業拡大を行っている。
- ・ネイティブソーシャルゲーム『ぼくとドラゴン』が引き続き好調を維持、第3四半期累計で上場以来最高の営業利益達成に貢献。
- ・8月12日に2016年9月期通期業績予想を売上高55億円（従来予想+8億円）、営業利益12億円（従来予想+2億円）に上方修正。
- ・売上増に伴う限界利益は5億円増となるが、事業投資費用として3億円を新たに見込み、『ぼくとドラゴン』に依存しない次の成長のための事業ポートフォリオの構築を加速させるとしている。

好調な事業を背景に、次の成長に向けた先行投資

の実施へ（2016年9月期3Qレビュー）

2016年9月期第3四半期会計期間

（単位：百万円）

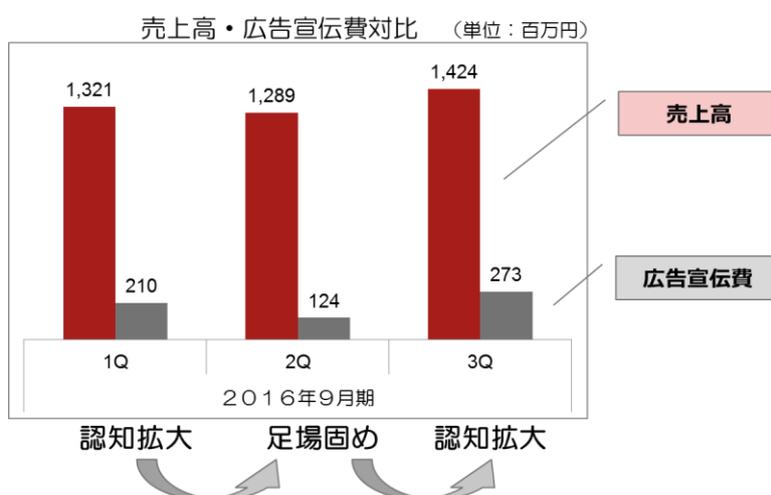
	2016年9月期 3Q（四半期）	前四半期比	前年同期比	2016年9月期 2Q（四半期）	2015年9月期 3Q（四半期）
売上高	1,424	110.5%	232.2%	1,289	613
無料ネイティブアプリ	172	97.1%	112.6%	178	153
ネイティブソーシャルゲーム	1,251	112.6%	272.2%	1,111	459
営業利益	358	82.4%	-	434	△70
営業利益率	25.2%	-	-	33.7%	-
経常利益	357	82.4%	-	434	△122
経常利益率	25.1%	-	-	33.7%	-
当期純利益	105	15.9%	-	664	△132
純利益率	7.4%	-	-	51.5%	-
広告宣伝費	273	219.1%	122.5%	124	222

《決算概況》

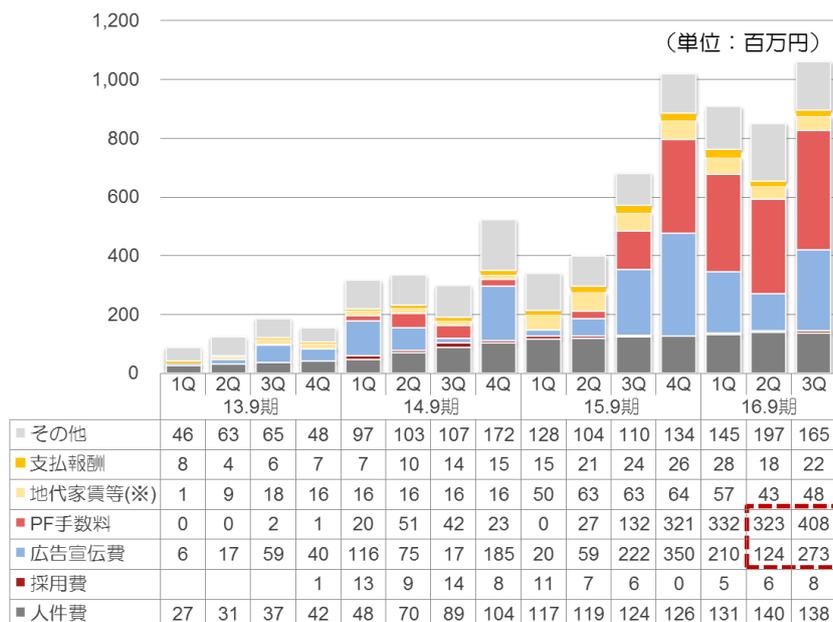
2016年9月期第3四半期（2016年4月～6月）は、引き続きネイティブソーシャルゲーム『ぼくとドラゴン』が引き続き好調を維持、第3四半期累計で上場以来最高の営業利益達成に貢献。

ラゴン』が好調に推移。売上高は前四半期比 10.5%増の 1,424 百万円となった。一方、第 2 四半期で上場以来の最高益を記録した営業利益については、358 百万円（対前四半期比-17.6%）となったが、これは第 3 四半期で対前四半期比 149 百万円増の広告宣伝費を計上したことによるものであり、仮に第 3 四半期が前四半期並みの広告宣伝費であった場合、営業利益は 507 百万円と算定され、四半期最高益を更新していたものと推測することが出来る。

当社は、第 3 四半期を“『ぼくとドラゴン』を中心とした既存サービスのステップアップの時期”として位置付け、ネット広告を中心に重点的な広告宣伝費の投下を実施。2016 年 9 月期通期では、第 1 四半期が「認知拡大」期、第 2 四半期が「足場固め」期と位置付けており、戦略的な事業運営によって売上高を着実に増加させることに成功している。



一方、その他経費については売上に連動して増加する（売上高の 30%相当）PF 手数料を除き、堅実にマネージされている。



※ 本社設備に係る減価償却費を含む

《業績予想の上方修正》

今回の決算発表と同時に、当社は今期 3 回目となる業績予想の修正（上方修正）を行っている。前回 2 回の修正においては、プロダクトの急速な陳腐化など不測の事態への配慮からか、極めて保守的な見積もりとなっていたが、今回は『ぼくとドラゴン』の事業収益が揺るぎないものであると会社側も確信できたものと思われ、売上高は前回予想に対し 8 億円増の 55 億円（第 4 四半期売上高は、第 3 四半期とほぼ同額の 1,465 百万円）に上方修正された。

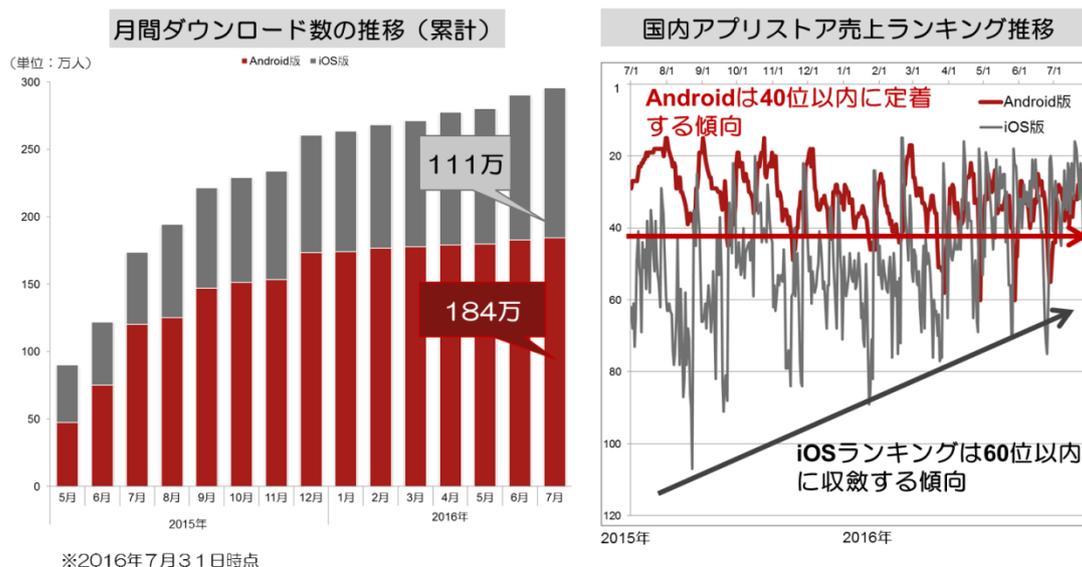
一方営業利益については、売上高の増額に伴う利益への影響額が 5 億円（限界利益率 62.5%）に対し、その内の 3 億円を既存事業のプロモーション費用および新規事業投資に振り向けるとしており、その差額分 2 億円についての上方修正（従来予想 10 億円⇒今回修正予想 12 億円）となっている。当期利益は従来予想通りの 900 百万円。その明細は、経常利益 1,200 百万円から関連会社 M. T. Burn の株式売却による特別利益 590 百万円、関連会社への貸倒引当金繰入による特別損失 100 百万円、法人税等の支払 790 百万円を見込んだもの。

法人税については、当社は現在個別納税の適用となっており、連結合算ができていないことから実効税率が高く見積もられている。なお、来期以降は連結納税の適用となり、この部分は解消される予定。

《事業の進捗状況》

■ ネイティブソーシャルゲーム『ぼくとドラゴン』

累計ダウンロードは 295 万を突破、セールスランキングも下記に示す通り Android では総じて 40 位以内で安定的に推移、iOS ではいまだ上昇傾向にあることが見て取れる。リリース後 1 年 5 か月を経過した現在、『ぼくとドラゴン』は国内ネイティブソーシャルゲーム市場で確固たる地位を築きつつあると見え、ロングセラーとなる様相を示している。



『ぼくとドラゴン』と同レベルにランクインしているゲームの多くは、TVCM などのマス広告によってプロモーションを行っているが、当社はネット広告とゲーム内でのイベント実施のみで現状の地位を確保しており、極めて費用対効果が高い運営に成功している稀有な事例と言えよう。

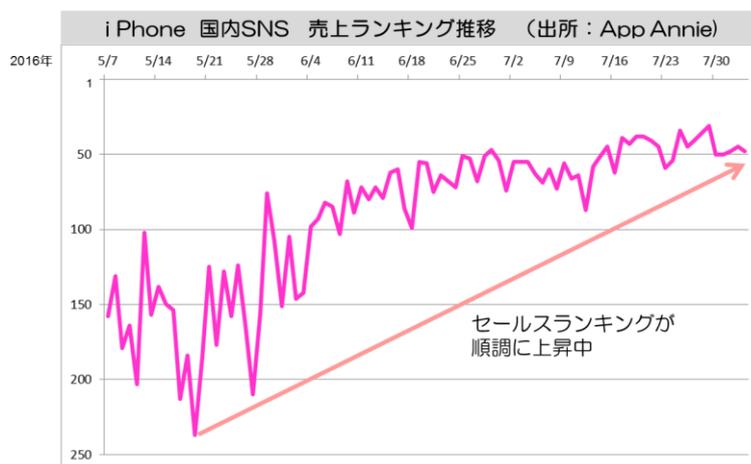
7 月後半に実施した大型イベント「進撃の巨人」とのコラボレーション企画では、当初想定の上の増加に加えて、まとまった数の新規ユーザー獲得も達成できた模様で、今後当社はこのノウハウを活用し、同種のイベント実施に軸足を移したプロモーション展開に注力すること。第3 四半期では、『ぼくとドラゴン』の全国ネット TVCM を開始するとしていたが、マス広告については当面見送り、効率・費用対効果重視のプロモーション戦略に大きくシフトする模様である。これは、従来のゲーム会社の「当たるも八卦」的な対応と一線を画すものであり、ボラティリティの高い業界の事業体質からの脱却を可能にするものとして、今後の成果に期待したい。

■無料ネイティブアプリ『LINE 怪盗にゃんこ』

6 月 30 日にリリースされた LINE との協業第一弾のゲームアプリ。このゲームは広告収入を主軸とした事業モデルであることから、主要 KPI はユーザー数となる。7 月月間では、Android で 1 位を 7 日、10 位以内を 22 日記録、iOS で 50 位以内を 21 日間キープし順調に事業拡大を行っている模様。当社は今後同種の協業についても積極的に実施するとしている。

■無料ネイティブアプリ『with』

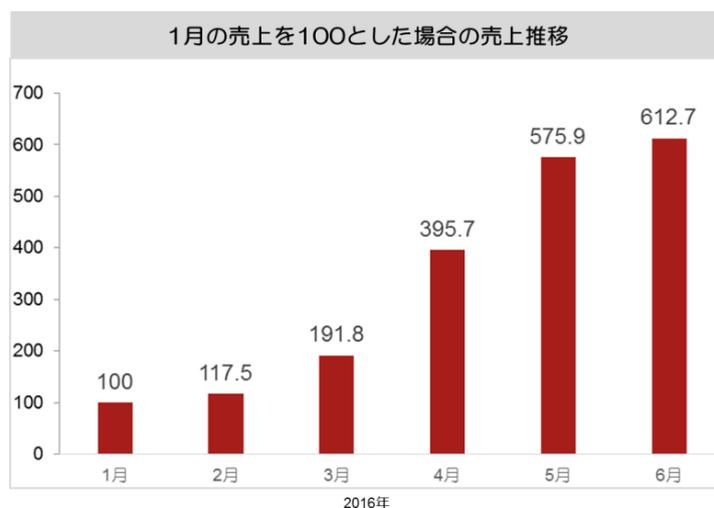
国内 SNS ジャンルでの売上ランキングは順調に拡大傾向を示している。（下記グラフ参照）



これはユーザーの支持が徐々に高まっている結果を反映していると考えられ、今後積極的なプロモーションによってユーザー層を拡大することにより、一層の成長を遂げることが期待される。

■ビジネスパーソン向けキュレーションメディア『U-NOTE』

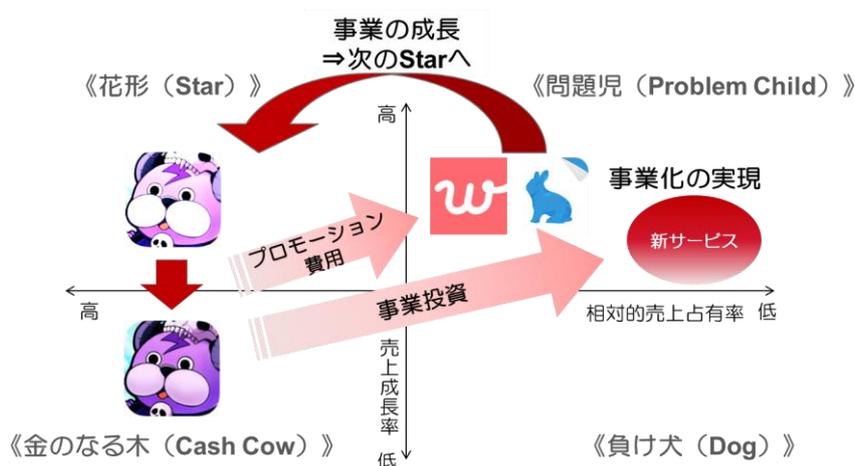
この事業は広告収入型の事業モデル。本年 1 月以降順調に売上を伸ばしている模様。



この事業についても、ユーザー認知を高めユーザー層を拡大させ、メディア価値を高めることによって、より一層の収益拡大が実現できるものと期待される。

《成長戦略：事業ポートフォリオ構築》

当社の事業構造をプロダクト・ポートフォリオの観点から俯瞰すると、主力サービスである『ぼくとドラゴン』は高い売上占有率を占める一方で、今後も成長が期待できることから、現状は「Star(花形)」に位置付くと考えられるが、サービスの成熟化に伴い、「Cash Cow(金のなる木)」への移行が進行していると言える。このような状況下で当社は、成長の兆しが顕在化しつつある「Problem Child(問題児：成長性は見込めるが、まだ売上の柱となりきれていないサービス)」、『with』や『U-NOTE』に対して『ぼくとドラゴン』の生み出すキャッシュを還流させ、次の「Star」への移行を促進させようとしている。



また、この機に新たなサービス開発への事業投資を行い、新収益源を創り出すことも模索している。今回の上方修正にあたって3億円の費用積み増しを行ったことはこのことの顕著な表れであると言える。一方当社は、5月17日付でドイツ証券と調達予定総額約43億円のターゲット・イシュー・プログラム(新株予約権買取契約：詳細下記)を締結しており、中期的な事業資金の調達手段確保にも着手している。

ターゲット・イシュー・プログラムの概要

回号	株数	行使価格
第8回新株予約権	155,000株	3,600円
第9回新株予約権	217,000株	5,900円
第10回新株予約権	248,000株	10,000円
発行新株予約権数	620,000株	
調達（予定）総額	4,314,923,210円	

（注）調達資金の額は、本新株予約権の払込金額の総額に本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額を合算した額から、本新株予約権の発行に係る諸費用の概算額を差し引いた金額です。行使価額が修正又は調整された場合には、調達資金の額は増加又は減少する可能性があります。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合及び当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、調達資金の額は減少します。

当社は業績のV字回復の過程の中で中核事業『ばくとドラゴン』の継続的な成長を図る一方、ゲーム会社という枠組みに嵌ることなく、事業の安定性を図る一方で更なる成長を目指して、幅広いジャンルに跨る事業ポートフォリオの構築・強化を推進しようとしている。

財務的なボラティリティを安定化させつつ、ネット事業者としての高い成長性を追いつける当社は、不透明感の増す経済環境の中にあって稀有な存在であると思われ、SIR は当社のオペレーションと事業展開に注視し、継続的にその成長過程をレポートしていきたい。

ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社 代表取締役 関口 裕一

=====
免責事項

・本レポートは、ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社が、投資家に対して株式投資の参考資料として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。

・本レポートの記載内容は、一般に入手可能な公開情報および、弊社取材による情報に基づいて作成されたものであり、インサイダー情報の入手およびその使用は禁じられています。本レポート作成に当たり、その情報は正確かつ信頼に足るものと考えておりますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。

・本レポートに含まれる情報は、金融市場・商品市況・経済環境等の変動等の理由により最新のものでなくなる可能性があります。また、本レポート内で記載されている、現状および将来的な予測については、弊社が適切と判断した材料に基づく弊社予想であり、実際とは異なることがあります。したがって、将来の数値等について明示または黙示を問わずこれを保証するものではありません。

・本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、弊社は本レポート内に含まれる情報および見解を更新する義務を負うものではありません。

・弊社は、投資家が本レポートを利用したことまたは本レポートに依拠したことによる、直接・間接の損失や逸失利益および損害を含むいかなる結果についても一切の責任を負うものではありません。

・本レポートの著作権はストラテジック・アイアール・インサイト株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

ストラテジック・アイアール・インサイト株式会社

=====